

# 第 55 回「山形県内企業の景気動向調査」 確報

(平成 30 年 5 月調査)

～景況感は 4 期連続で悪化し、停滞傾向～

## 【 調査の要旨 】

- **県内企業の業況**は、自社の業況判断を示す「自社の業況 D I 値 (前年同期比)」が▲0.3 (前回調査比 2.8 ポイント下落) と小幅ながら **4 期連続で悪化**し、D I 値がマイナスに転じた。「各種 D I 値 (前年同期比)」をみると、「営業利益」「資金繰り」が改善したものの、「売上高」「人員・人手」が悪化し、業況には停滞感がみられる。
- **業種別**に「自社の業況 D I 値 (前年同期比)」をみると、建設業が▲2.1 (前回調査比 11.3 ポイント下落)、製造業が 19.3 (前回調査比 7.1 ポイント上昇)、卸・小売業が▲16.5 (前回調査比 2.2 ポイント上昇)、サービス業が▲7.8 (前回調査比 11.9 ポイント下落) と、**製造業と卸・小売業で改善**したものの、**建設業とサービス業で悪化**した。建設業では D I 値がマイナスに転じた。
- **地域別**に「自社の業況 D I 値 (前年同期比)」をみると、村山南部が▲7.0 (前回調査比 0.4 ポイント上昇)、村山北部が 12.0 (前回調査比 13.9 ポイント上昇)、最上が 6.8 (前回調査比 4.2 ポイント上昇)、置賜が▲1.7 (前回調査比 7.4 ポイント下落)、庄内田川が▲1.3 (前回調査比 15.7 ポイント下落)、庄内飽海が 0.0 (前回調査比 3.8 ポイント下落) となっている。**村山南部がほぼ横ばい、村山北部と最上で改善**したものの、**置賜、庄内田川、庄内飽海で悪化**となった。置賜と庄内田川では D I 値がマイナスに転じている。
- **先行き見通し**は「自社の業況 D I 値」が▲9.6 (今回調査比 9.3 ポイント下落) と悪化し、D I 値のマイナス幅が拡大する見込みとなっている。

## 【特別調査】

- **夏季ボーナス**について尋ねたところ、全業種でみると、「支給する」と回答した企業の割合は 58.7% (前年比 0.2 ポイント上昇) と、前年とほぼ同水準となった。
- **平成 30 年 4 月以降の賃金改定動向**について尋ねたところ、賃上げを実施する (した) 企業の割合 (「ベア・定昇とも実施」+「ベアのみ実施」+「定昇のみ実施」) は、全業種で 53.0% と、前年 (51.6%) に引き続き 5 割以上を占めた。

平成 30 年 6 月

株式会社 フィデア総合研究所

# 目次

I.	県内企業の業況	1
1.	概況	1
2.	業種別の動向	2
(1)	業種別の概況	2
(2)	業種別 D I 値の動向	3
①	建設業	3
②	製造業	5
③	卸・小売業	7
④	サービス業	9
3.	地域別の動向	11
(1)	地域別の概況	11
(2)	地域別 D I 値の動向	12
①	村山南部	12
②	村山北部	13
③	最上	14
④	置賜	15
⑤	庄内田川	16
⑥	庄内飽海	17
II.	景気のお天気予報図	18
III.	特別調査	19
1.	夏季ボーナスについて	19
(1)	支給予定動向	19
(2)	支給予定額	21
2.	春季以降の賃金改定動向について	23
<参考資料 I : 地域別・業種別回答率>		24
<参考資料 II : 調査の概要>		24

## I. 県内企業の業況

### 1. 概況

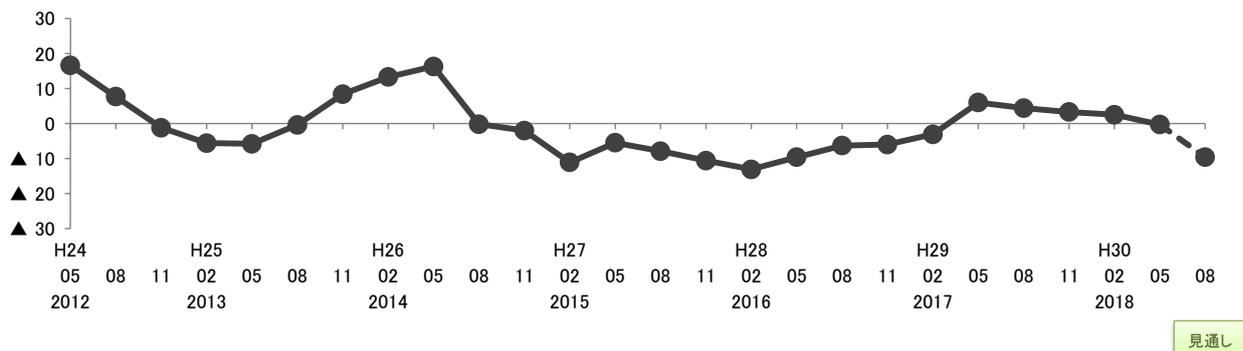
#### 現状判断：業況には停滞感がみられる

県内企業の業況は、自社の業況判断を示す「自社の業況 D I 値（前年同期比）」が▲0.3（前回調査比 2.8 ポイント下落）と小幅ながら 4 期連続で悪化し、D I 値がマイナスに転じた。「各種 D I 値（前年同期比）」をみると、「営業利益」「資金繰り」が改善したものの、「売上高」「人員・人手」が悪化し、業況には停滞感がみられる

#### 来期の見通し：悪化が見込まれる

先行き見通しは、「自社の業況 D I 値」が▲9.6（今回調査比 9.3 ポイント下落）と悪化し、D I 値のマイナス幅が拡大する見込みとなっている。

図表 1 全業種「自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況 D I 値

山形県 調査時 (サンプル数)	自社業況 (前年同期比)			売上高	営業利益	人員 人手	資金 繰り
	全業種	前回調査比	前回調査予測				
H 29.05 (n=419)	6.0	(9.1)	▲ 10.6	4.6	4.1	28.6	▲ 1.5
H 29.08 (n=435)	4.4	(▲ 1.6)	▲ 9.0	6.2	1.7	35.6	0.0
H 29.11 (n=418)	3.3	(▲ 1.1)	▲ 6.7	4.1	▲ 0.2	41.4	▲ 4.0
H 30.02 (n=414)	2.5	(▲ 0.8)	▲ 8.1	3.6	▲ 2.4	40.8	▲ 2.9
<b>H 30.05 (n=426)</b>	<b>▲ 0.3</b>	<b>(▲ 2.8)</b>	<b>▲ 12.5</b>	<b>2.6</b>	<b>0.9</b>	<b>31.5</b>	<b>0.9</b>
前回調査比	-	-	-	(▲ 1.0)	(3.3)	(▲ 9.3)	(3.8)
<b>先行き見通し</b>	<b>▲ 9.6</b>	-	-	<b>▲ 10.6</b>	<b>▲ 15.5</b>	<b>33.6</b>	<b>▲ 8.9</b>
今回調査比	(▲ 9.3)	-	-	(▲ 13.2)	(▲ 16.4)	(2.1)	(▲ 9.8)

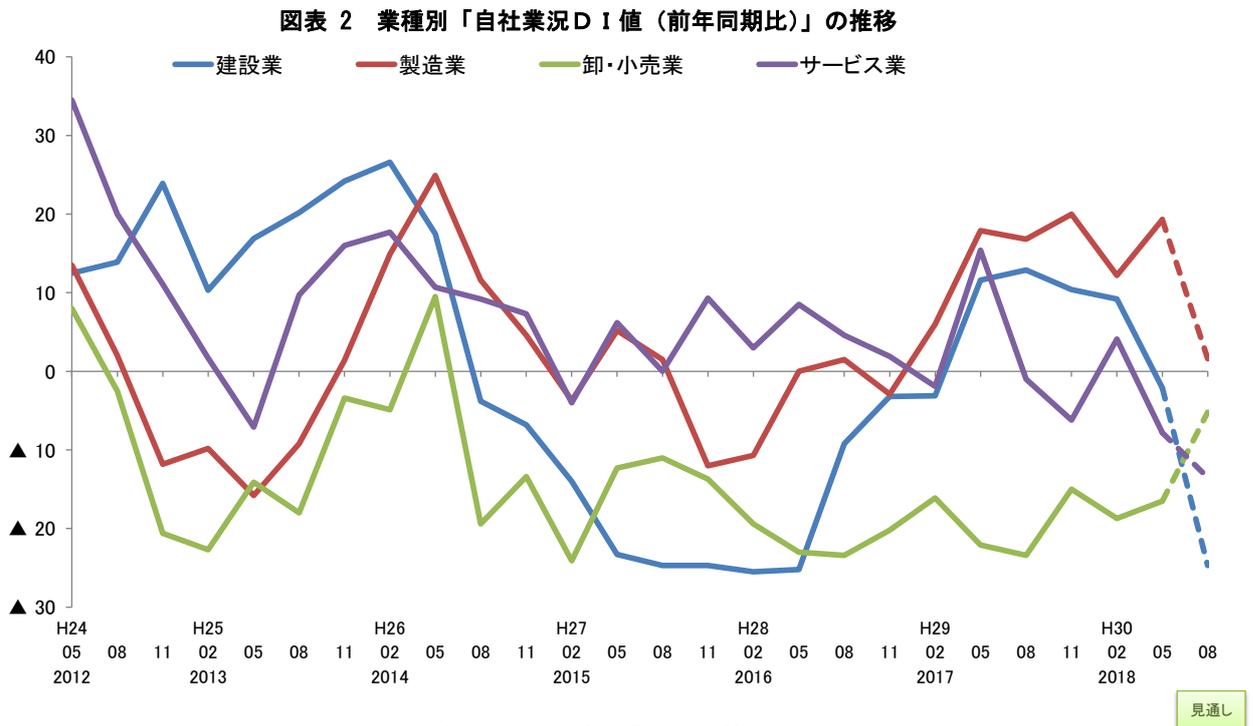
※「売上高」D I 値は建設業の「完成工事高」を含んだ数値

## 2. 業種別の動向

### (1) 業種別の概況

業種別に「自社の業況 D I 値（前年同期比）」をみると、建設業が▲2.1（前回調査比 11.3 ポイント下落）、製造業が 19.3（前回調査比 7.1 ポイント上昇）、卸・小売業が▲16.5（前回調査比 2.2 ポイント上昇）、サービス業が▲7.8（前回調査比 11.9 ポイント下落）と、製造業と卸・小売業で改善したものの、建設業とサービス業で悪化した。建設業では D I 値がマイナスに転じた。

業況の先行き見通しは、卸・小売業で改善、その他の 3 業種で悪化の見込みとなっている。



前年同期比の自社業況 D I 値

業種別 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）				
	全業種	建設	製造	卸・小売	サービス
H 29.05 (n=419)	6.0	11.6	17.9	▲ 22.1	15.4
H 29.08 (n=435)	4.4	12.9	16.8	▲ 23.4	▲ 1.0
H 29.11 (n=418)	3.3	10.4	20.0	▲ 15.0	▲ 6.2
H 30.02 (n=414)	2.5	9.2	12.2	▲ 18.7	4.1
<b>H 30.05 (n=426)</b>	<b>▲ 0.3</b>	<b>▲ 2.1</b>	<b>19.3</b>	<b>▲ 16.5</b>	<b>▲ 7.8</b>
前回調査比	(▲ 2.8)	(▲ 11.3)	(7.1)	(2.2)	(▲ 11.9)
<b>先行き見通し</b>	<b>▲ 9.6</b>	<b>▲ 24.7</b>	<b>1.6</b>	<b>▲ 5.2</b>	<b>▲ 13.5</b>
今回調査比	(▲ 9.3)	(▲ 22.6)	(▲ 17.7)	(11.3)	(▲ 5.7)

## (2) 業種別 D I 値の動向

### ① 建設業

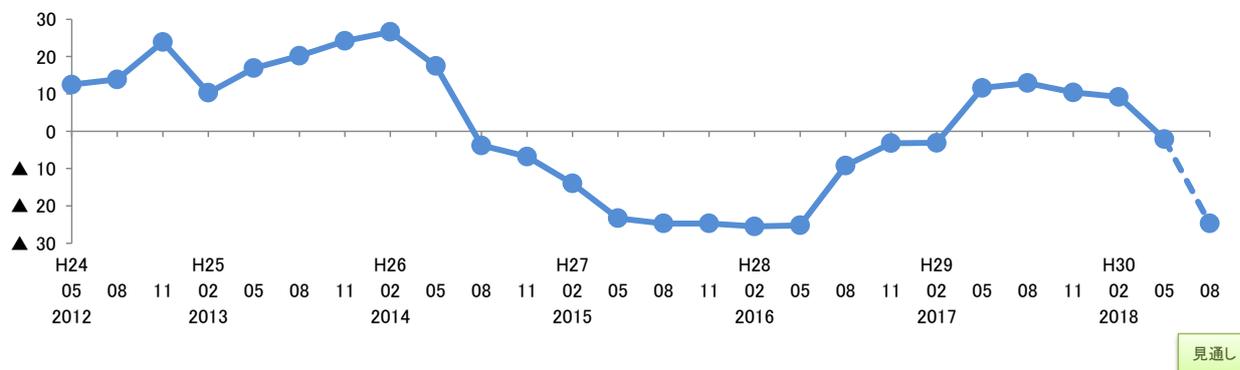
#### 現状：3期連続で悪化

「自社の業況 D I 値（前年同期比）」は▲2.1（前回調査比 11.3 ポイント下落）と 3 期連続で悪化となった。「各種 D I 値（前年同期比）」をみると、「完成工事高」「営業利益」「資金繰り」で改善したものの、「手持工事高」が悪化した。「人員・人手」の D I 値は 43.3 と前回調査比 9.8 ポイントの下落となったものの高水準で推移しており、依然として人手不足感の高い状況が続いている。

#### 来期の見通し：大幅な悪化が見込まれる

業況の先行き見通しは、「自社の業況 D I 値」が▲24.5（今回調査比 22.6 ポイント下落）と大幅に悪化が見込まれている。

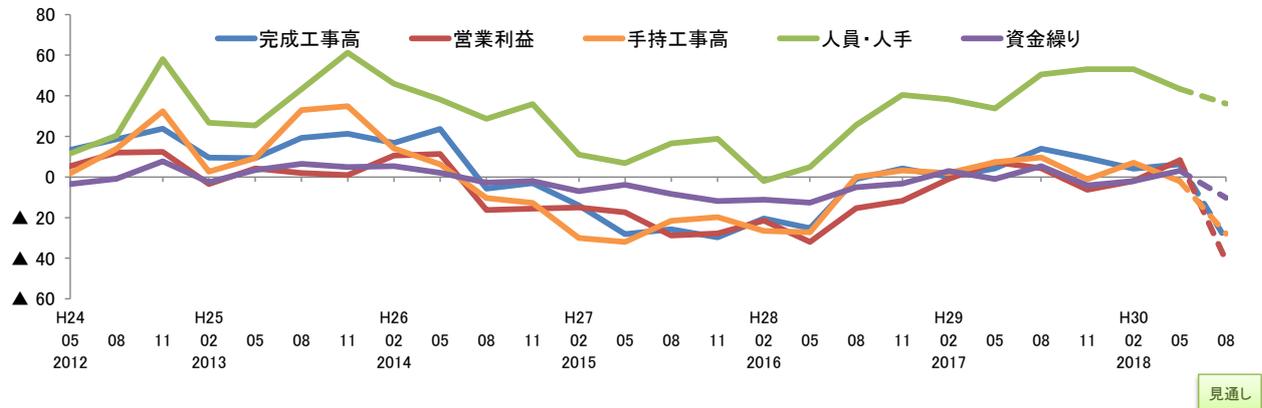
図表 3 建設業「自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況 D I 値

建設業 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			完成 工事高	営業 利益	手持 工事高	人員 人手	資金 繰り
	前回調査比	前回調査予測	今回調査比					
H 29.05 (n=95)	11.6	(14.7)	▲ 13.2	4.2	7.3	7.3	33.7	▲ 1.0
H 29.08 (n=93)	12.9	(1.3)	▲ 20.0	14.0	4.3	9.7	50.5	5.4
H 29.11 (n=97)	10.4	(▲ 2.5)	▲ 10.8	9.3	▲ 6.3	▲ 1.1	53.1	▲ 4.2
H 30.02 (n=98)	9.2	(▲ 1.2)	▲ 17.7	4.1	▲ 2.0	7.1	53.1	▲ 2.0
<b>H 30.05 (n=97)</b>	<b>▲ 2.1</b>	<b>(▲ 11.3)</b>	<b>▲ 23.5</b>	<b>6.2</b>	<b>8.3</b>	<b>▲ 2.1</b>	<b>43.3</b>	<b>3.1</b>
前回調査比	-	-	-	(2.1)	(10.3)	(▲ 9.2)	(▲ 9.8)	(5.1)
<b>先行き見通し</b>	<b>▲ 24.7</b>	-	-	<b>▲ 30.9</b>	<b>▲ 41.2</b>	<b>▲ 27.9</b>	<b>36.1</b>	<b>▲ 10.3</b>
今回調査比	(▲ 22.6)	-	-	(▲ 37.1)	(▲ 49.5)	(▲ 25.8)	(▲ 7.2)	(▲ 13.4)

図表 4 建設業「各種DI値（前年同期比）」の推移



Q. 今期の業況について

業界の声

- 受注競争が厳しく、低採算の工事が多いため、売上高は横ばい、減益予想。(村山南)
- 手持工事が完成となり、減少している。しかし、新規工事受注が厳しい状況。公共、民間工事発注が減少しているため受注競争が激化している。収益環境も厳しさを増している。(村山南)
- 市町村公共工事発注物件がほとんどなく非常に厳しい状況である。(村山北)
- 公共工事は好調であるが、発注件数・金額に波があり、受注タイミングにより業績・利益に大きな差が出ている。(最上)
- 前期より数字的にはよい。新築工事等が増えているように感じる。(置賜)
- 例年通り工事が3月で集中的に完成し手持工事が減少している。(庄内飽海)

Q. 来期の見通しや対策について

- 4月が前年同期と比べて若干の減少となるが、受注は確保しており前年並みを予想。(村山南)
- 同業他社との業務提携等の検討している。グループ化を促進して対応していきたい。(村山南)
- 65歳以上社員の再雇用見直しを検討している。(村山北)
- 東北中央道開通に伴い、米沢エリアの土木工事が大幅に減少している状況。今後も、影響は大きい。(置賜)
- 社員の高齢化が目立ってきている現状だが、若者がなかなか目をむけてくれないので非常に苦慮している。今後、若者を定着させるには、休日の与え方等について、家族の休みに合わせた勤務体制を作ることが大切かと思ひ、努力している。(置賜)
- 高校卒の人材で地元で定着する人数が目に見えて少なくなっているため、将来的な人員の確保について思案中である。(庄内飽海)

## ② 製造業

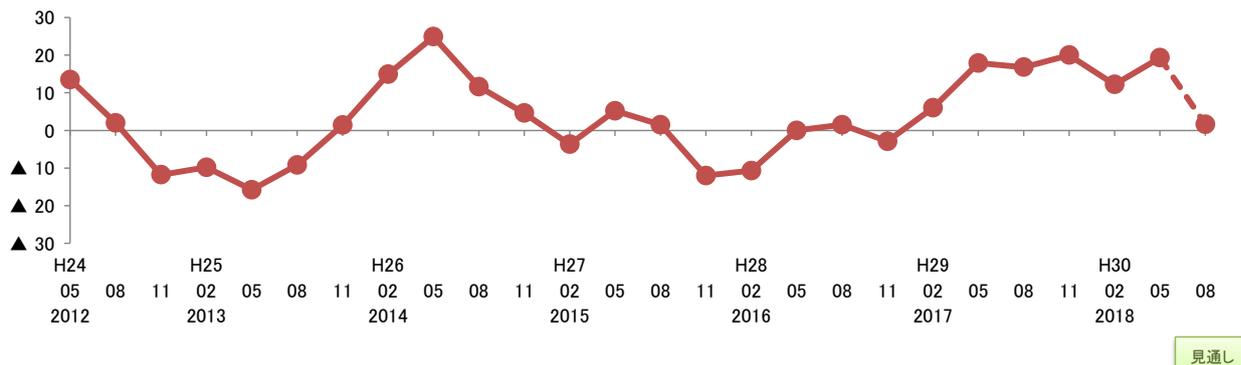
### 現状：一進一退

「自社の業況DI値（前年同期比）」は 19.3（前回調査比 7.1 ポイント上昇）となり、一進一退の状況となっている。「各種DI値（前年同期比）」をみると、「仕入価格」「在庫状況」「人員・人手」で悪化した一方、「売上高」「営業利益」「資金繰り」が改善となった。

### 来期の見通し：悪化が見込まれる

業況の先行き見通しは、「自社の業況DI値」が 1.6（今回調査比 17.7 ポイント下落）と悪化の見込みとなっている。原材料費の高騰などから先行きを懸念しているものと考えられる。

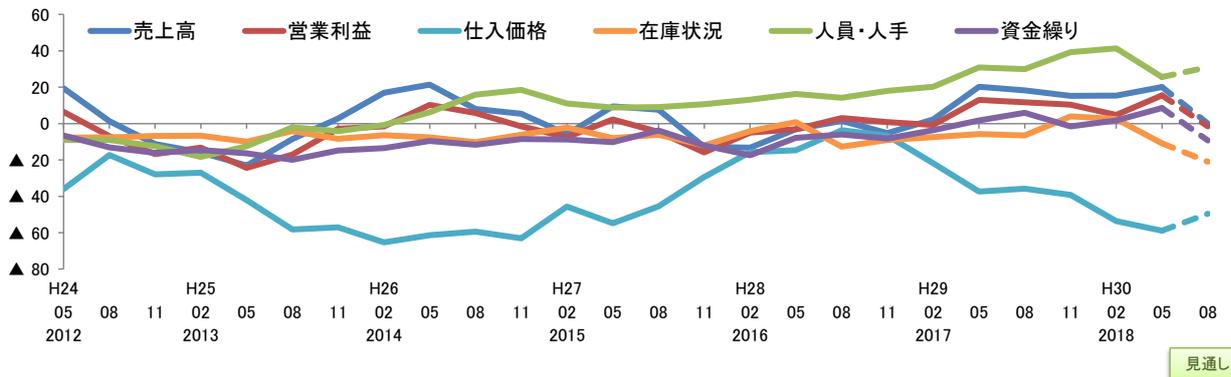
図表 5 製造業「自社業況DI値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況DI値

製造業 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			売上高	営業利益	仕入価格	在庫状況	人員 人手	資金繰り
	前回調査比	前回調査予測							
H 29.05 (n=123)	17.9	(11.9)	▲ 9.0	20.3	13.0	▲ 37.4	▲ 5.7	30.9	1.7
H 29.08 (n=137)	16.8	(▲ 1.1)	8.2	18.3	11.7	▲ 35.8	▲ 6.5	29.9	5.9
H 29.11 (n=125)	20.0	(3.2)	2.9	15.2	10.4	▲ 39.2	4.0	39.2	▲ 1.6
H 30.02 (n=123)	12.2	(▲ 7.8)	2.4	15.4	4.8	▲ 53.6	2.5	41.4	1.7
<b>H 30.05 (n=129)</b>	<b>19.3</b>	<b>(7.1)</b>	<b>▲ 9.0</b>	<b>20.1</b>	<b>15.5</b>	<b>▲ 58.9</b>	<b>▲ 10.8</b>	<b>25.6</b>	<b>8.5</b>
前回調査比	-	-	-	(4.7)	(10.7)	(▲ 5.3)	(▲ 13.3)	(▲ 15.8)	(6.8)
<b>先行き見通し</b>	<b>1.6</b>	-	-	<b>0.0</b>	<b>▲ 1.5</b>	<b>▲ 49.6</b>	<b>▲ 20.9</b>	<b>31.0</b>	<b>▲ 9.3</b>
今回調査比	(▲ 17.7)	-	-	(▲ 20.1)	(▲ 17.0)	(9.3)	(▲ 10.1)	(5.4)	(▲ 17.8)

図表 6 製造業「各種DI値（前年同期比）」の推移



Q. 今期の業況について

業界の声

- 為替相場を円安に設定していたが、現在若干の円高で推移していることから、弊社の原材料輸入には有利に働いている。(村山南)
- 複数の退職者が発生しているため、人員不足が深刻で、収益性にも大きく影響している。前期の業績より非常に悪い状況である。(村山北)
- 原材料、運賃等の値上げが相次ぎ、利益が減少している。大手との格差から価格転嫁できない。(置賜)
- 業況は良い方だが、人員不足から残業や休日出勤が増えている。(庄内田川)
- 燃料価格や資材費などが高騰し始めて営業利益を圧迫している。(庄内田川)
- 前年度からの好況で引き続き前年よりも売り上げが伸びている。(庄内飽海)

Q. 来期の見通しや対策について

- ゴールデンウィークやお盆の帰省など、短期集中に対応していく。また、お土産の商品ラインナップを強化していく。(村山南)
- ギフト商品の多様化により中元・歳暮は減少の見込みだが、ライフスタイルギフト(内祝や手土産ギフト)は伸びている部門になるため、力を入れて取り組む。(置賜)
- 原料高、人手不足等不安材料が多いが、新商品開発とニーズの先取りで対抗するしかないと思われる。(置賜)
- 原料高による粗利益率の低下が続く見通し。(庄内田川)
- 「食品安全」を重点課題とし、HACCPからISO22000への取り組みを計画している。(庄内田川)
- 拡販や、原燃料コストアップ分の価格転嫁、省エネ設備によるコスト削減等により、利益を確保する見通しである。(庄内飽海)

### ③ 卸・小売業

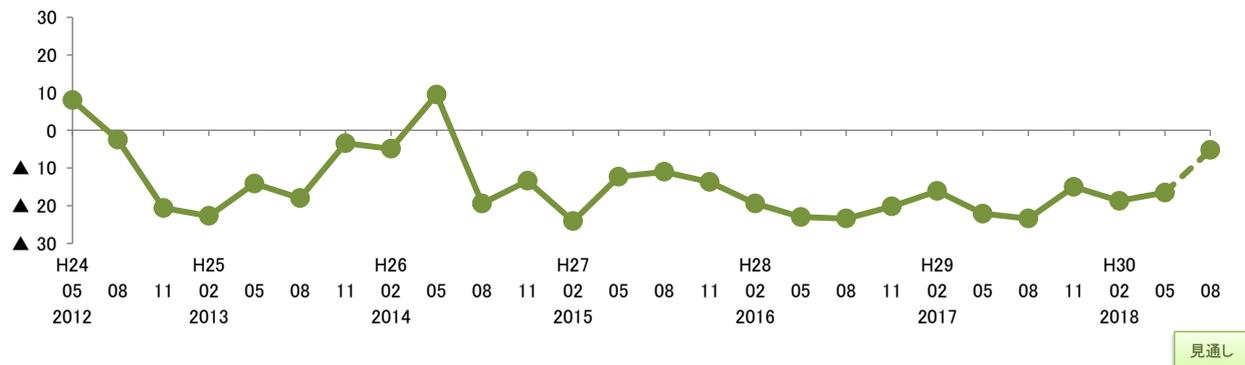
#### 現状：足踏み状態

「自社の業況 D I 値（前年同期比）」は▲16.5（前回調査比 2.2 ポイント上昇）となり、足踏み状態となっている。「各種 D I 値（前年同期比）」をみると、「資金繰り」で改善した一方、「売上高」「営業利益」「在庫状況」「人員・人手」で悪化、「仕入価格」でほぼ横ばいとなった。

#### 来期の見通し：低調な推移が見込まれる

業況の先行き見通しは、▲5.2（今回調査比 11.3 ポイント上昇）と改善の見込みとなっているものの、D I 値は依然として低調な推移が見込まれている。

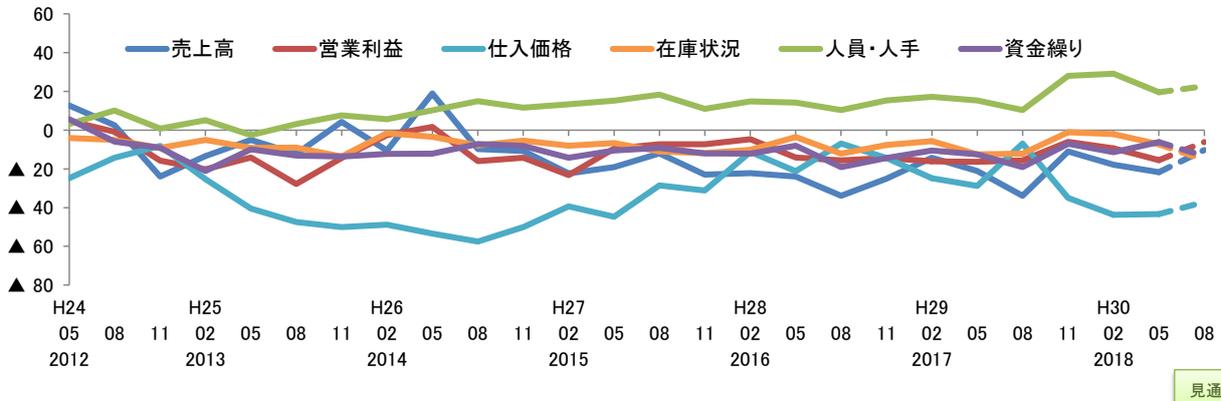
図表 7 卸・小売業「自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況 D I 値

卸・小売業 調査時 (サンプル数)	自社業況 (前年同期比)			売上高	営業利益	仕入価格	在庫状況	人員 人手	資金繰り
	前回調査比	前回調査予測							
H 29.05 (n=104)	▲ 22.1	(▲ 6.0)	▲ 18.1	▲ 21.1	▲ 16.3	▲ 28.8	▲ 12.5	15.4	▲ 12.5
H 29.08 (n=105)	▲ 23.4	(▲ 1.3)	▲ 13.4	▲ 33.9	▲ 15.6	▲ 6.9	▲ 12.1	10.4	▲ 19.1
H 29.11 (n=100)	▲ 15.0	(8.4)	▲ 12.2	▲ 11.0	▲ 6.0	▲ 35.0	▲ 1.0	28.0	▲ 7.0
H 30.02 (n=96)	▲ 18.7	(▲ 3.7)	▲ 13.0	▲ 17.8	▲ 9.4	▲ 43.7	▲ 2.1	29.2	▲ 11.4
<b>H 30.05 (n=97)</b>	<b>▲ 16.5</b>	<b>(2.2)</b>	<b>▲ 15.6</b>	<b>▲ 21.7</b>	<b>▲ 15.5</b>	<b>▲ 43.3</b>	<b>▲ 7.3</b>	<b>19.6</b>	<b>▲ 6.2</b>
前回調査比	-	-	-	(▲ 3.9)	(▲ 6.1)	(0.4)	(▲ 5.2)	(▲ 9.6)	(5.2)
<b>先行き見通し</b>	<b>▲ 5.2</b>	-	-	<b>▲ 10.3</b>	<b>▲ 6.2</b>	<b>▲ 37.1</b>	<b>▲ 15.5</b>	<b>22.7</b>	<b>▲ 13.4</b>
今回調査比	(11.3)	-	-	(11.4)	(9.3)	(6.2)	(▲ 8.2)	(3.1)	(▲ 7.2)

図表 8 卸・小売業「各種DI値（前年同期比）」の推移



見通し

### Q. 今期の業況について

### 業界の声

- 今期は年間最需要期にあたり、それなりの業績は確保できたが、閑散期に当たる夏場にどのような対応をするのが課題となっている。(村山南)
- 定年退職による雇用人員の減少により売上は減ってしまったが、効率性については、自社努力したため利益をそれなりに確保した。(村山南)
- 新規事業として立ち上げた直売施設の状況次第によっては好業績が期待できる。(村山北)
- 来店客数が少ない。天候により格差がある。(最上)
- 昨年とほぼ同様に推移している。消費に対する高揚感は一向に感じられない。(置賜)
- 建築関連が低調であるが、工業品関連がやや好調に見える。(庄内飽海)

### Q. 来期の見通しや対策について

- 不採算営業所の移転統合を検討している。(村山南)
- 部門ごとの売上データを洗い直し、余分な在庫を縮小する。(村山南)
- 得意先の生産状況や働き方改革の取り組み等の環境の変化への対応次第で当社業績に大きな影響を受ける懸念がある。(村山南)
- 従業員が今後高齢になっていくに当たり、負担を少なくするため、マニュアルを整備し誰でも対応できるようにしていきたい。(置賜)
- 消費支出の動きは鈍い。また競合各社との競争はますます激化している。高齢化、人口減少は続き、昨季より良くなる見通しは少ない。(庄内田川)
- 例年より気温が高いため、来期は夏物への取り組みが早くなりそう。(庄内飽海)

## ④ サービス業

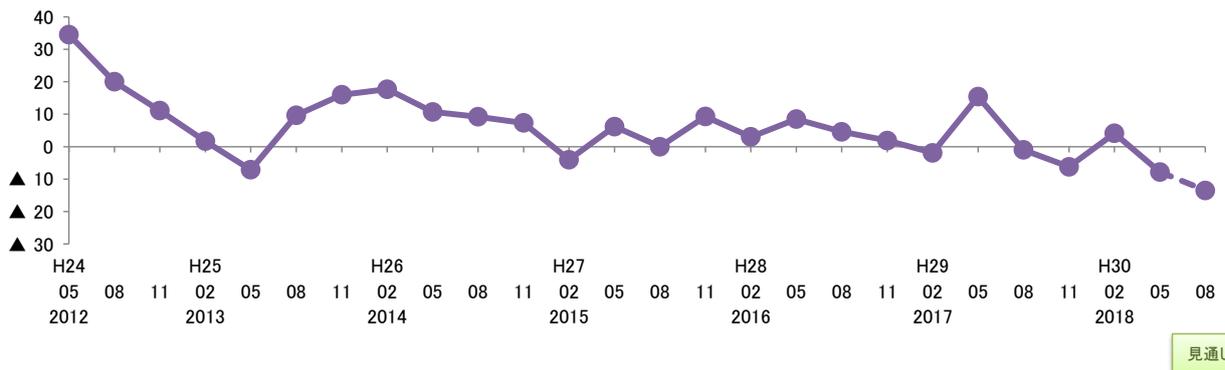
### 現状：一進一退

「自社の業況 D I 値（前年同期比）」は▲7.8（前回調査比 11.9 ポイント下落）と、再び D I 値がマイナスに転じた。「各種 D I 値（前年同期比）」をみると、「売上高」「営業利益」「人員・人手」「資金繰り」のすべてで悪化となった。

### 来期の見通し：悪化が見込まれる

業況の先行き見通しは、「自社の業況 D I 値」が▲13.5（今回調査比 5.7 ポイント下落）と悪化の見込みとなっている。

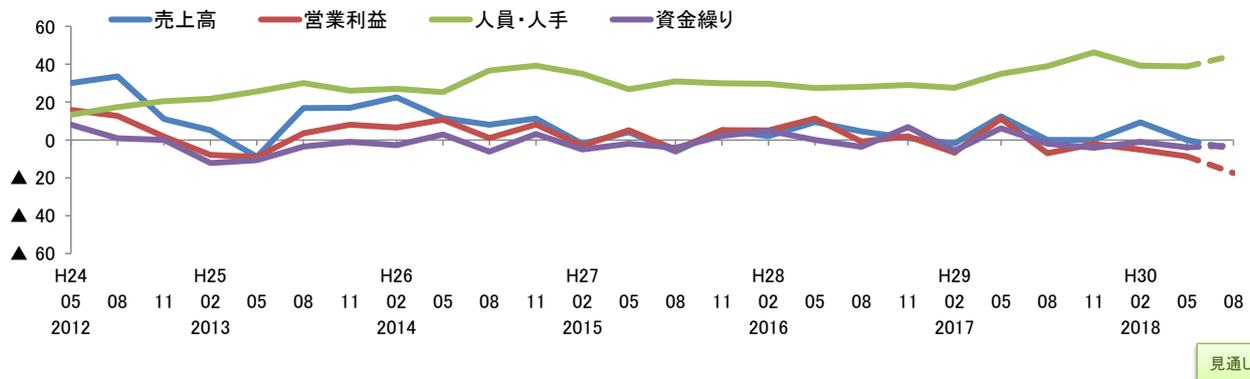
図表 9 サービス業「自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況 D I 値

サービス業 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			売上高	営業利益	人員 人手	資金 繰り
	前回調査比	前回調査予測					
H 29.05 (n=97)	15.4	(17.3)	▲ 2.9	12.4	11.3	35.0	6.2
H 29.08 (n=100)	▲ 1.0	(▲ 16.4)	▲ 15.5	0.0	▲ 7.0	39.0	▲ 2.0
H 29.11 (n=97)	▲ 6.2	(▲ 5.2)	▲ 5.0	0.0	▲ 2.1	46.3	▲ 4.1
H 30.02 (n=97)	4.1	(10.3)	▲ 7.2	9.3	▲ 5.1	39.2	▲ 1.0
<b>H 30.05 (n=103)</b>	<b>▲ 7.8</b>	<b>(▲ 11.9)</b>	<b>▲ 3.1</b>	<b>0.0</b>	<b>▲ 8.7</b>	<b>38.8</b>	<b>▲ 3.9</b>
前回調査比	-	-	-	(▲ 9.3)	(▲ 3.6)	(▲ 0.4)	(▲ 2.9)
<b>先行き見通し</b>	<b>▲ 13.5</b>	-	-	<b>▲ 4.9</b>	<b>▲ 17.5</b>	<b>44.6</b>	<b>▲ 2.9</b>
今回調査比	(▲ 5.7)	-	-	(▲ 4.9)	(▲ 8.8)	(5.8)	(1.0)

図表 10 サービス業「各種DI値（前年同期比）」の推移



### Q. 今期の業況について

### 業界の声

- 原油価格が高止まりしていることから、前年同期、前期よりも厳しい状況にある。(村山南)
- この冬のシーズンはインバウンドのお客様が劇的に増えた。1月の単月売上としては最高額を計上した。(村山南)
- 今季は雪が多く、管理駐車場の除雪費用が例年より大幅に増加したことにより営業利益が減少した。仲介案件の件数確保に努めているものの契約への動きは鈍い。(庄内田川)
- この1月～3月は例年以上の大雪の影響で外出を控えられたのか、例年になく予約が激減したので売上低下もまた深刻である。(庄内田川)
- 燃料費の高騰で利益を圧迫している。人手不足は変わらず続いており、業務を拡大したくてもできない状況となっている。(庄内田川)
- 今期は例年になく荒天に見舞われ不稼働日が多く、売上が大幅に減少した。(庄内飽海)
- 雇用人数が不足しているため、少し仕事が混んでくると、お客様との入庫の時間調整、社員の残業増加につながってしまう。(庄内飽海)

### Q. 来期の見通しや対策について

- 現状では取引先に大きな変化はないが、ドライバー不足から大きく売上高を増やすことは困難である。さらに、地政学的リスクから燃料価格が引き続き上昇する傾向にあり、利益は減少すると考える。(村山南)
- 同業他社との提携や共同事業などを視野に効率化を推し進めている。(村山南)
- 技術の進化が甚だしい。工員の教育に費用がかかる。(村山北)
- インバウンドが大幅に伸びている。チャーター便が増便されることにより来客が増え、業況が良くなると考える。(最上)
- 海外観光客に向けて言語変換タブレットを導入予定である。(庄内飽海)

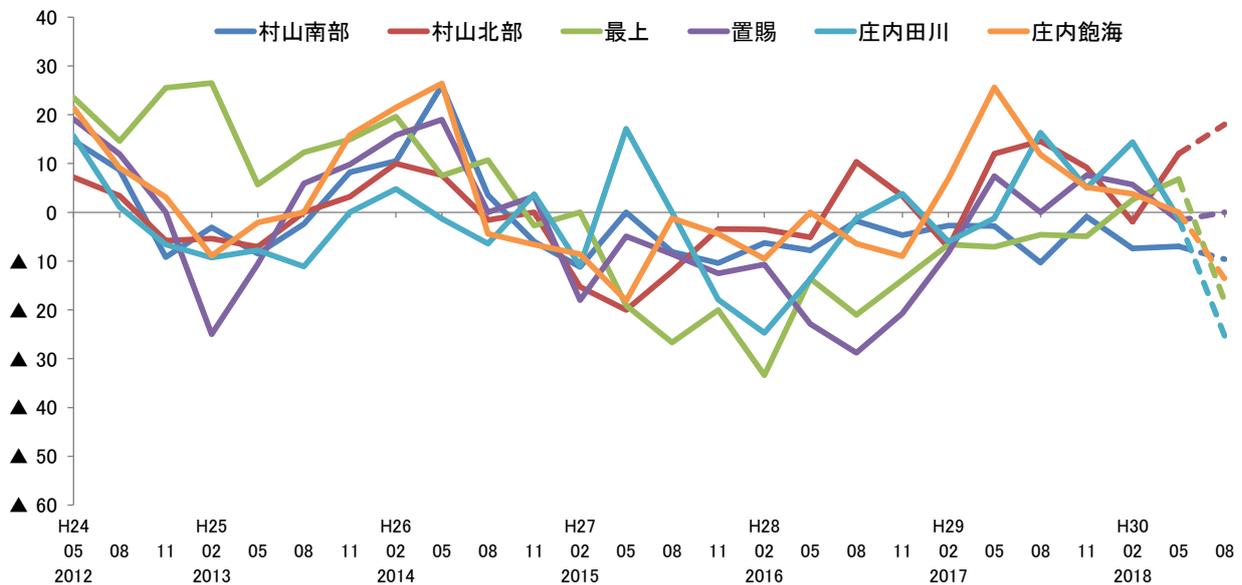
### 3. 地域別の動向

#### (1) 地域別の概況

地域別に「自社の業況DI値（前年同期比）」をみると、村山南部が▲7.0（前回調査比0.4ポイント上昇）、村山北部が12.0（前回調査比13.9ポイント上昇）、最上が6.8（前回調査比4.2ポイント上昇）、置賜が▲1.7（前回調査比7.4ポイント下落）、庄内田川が▲1.3（前回調査比15.7ポイント下落）、庄内飽海が0.0（前回調査比3.8ポイント下落）となっている。村山南部がほぼ横ばい、村山北部と最上で改善したものの、置賜、庄内田川、庄内飽海で悪化となった。置賜と庄内田川ではDI値がマイナスに転じている。

業況の先行き見通しをみると、村山南部、最上、庄内田川、庄内飽海で悪化が見込まれている。

図表 11 地域別「自社業況DI値（前年同期比）」の推移



見通し

前年同期比の自社業況DI値

地域別 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）						
	全地域	村山南部	村山北部	最上	置賜	庄内田川	庄内飽海
H 29.05 (n=419)	6.0	▲ 2.8	12.0	▲ 7.1	7.4	▲ 1.2	25.6
H 29.08 (n=435)	4.4	▲ 10.3	14.6	▲ 4.6	0.0	16.3	11.8
H 29.11 (n=418)	3.3	▲ 0.9	9.2	▲ 4.9	7.6	5.0	5.1
H 30.02 (n=414)	2.5	▲ 7.4	▲ 1.9	2.6	5.7	14.4	3.8
<b>H 30.05 (n=426)</b>	<b>▲ 0.3</b>	<b>▲ 7.0</b>	<b>12.0</b>	<b>6.8</b>	<b>▲ 1.7</b>	<b>▲ 1.3</b>	<b>0.0</b>
前回調査比	(▲ 2.8)	(0.4)	(13.9)	(4.2)	(▲ 7.4)	(▲ 15.7)	(▲ 3.8)
<b>先行き見通し</b>	<b>▲ 9.6</b>	<b>▲ 9.6</b>	<b>18.0</b>	<b>▲ 18.2</b>	<b>0.0</b>	<b>▲ 25.3</b>	<b>▲ 13.6</b>
今回調査比	(▲ 9.3)	(▲ 2.6)	(6.0)	(▲ 25.0)	(1.7)	(▲ 24.0)	(▲ 13.6)

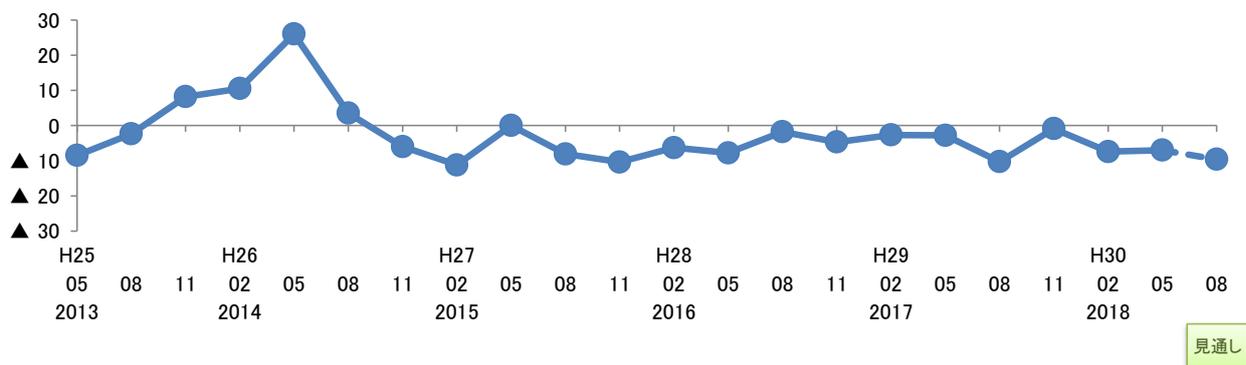
## (2) 地域別 D I 値の動向

### ① 村山南部

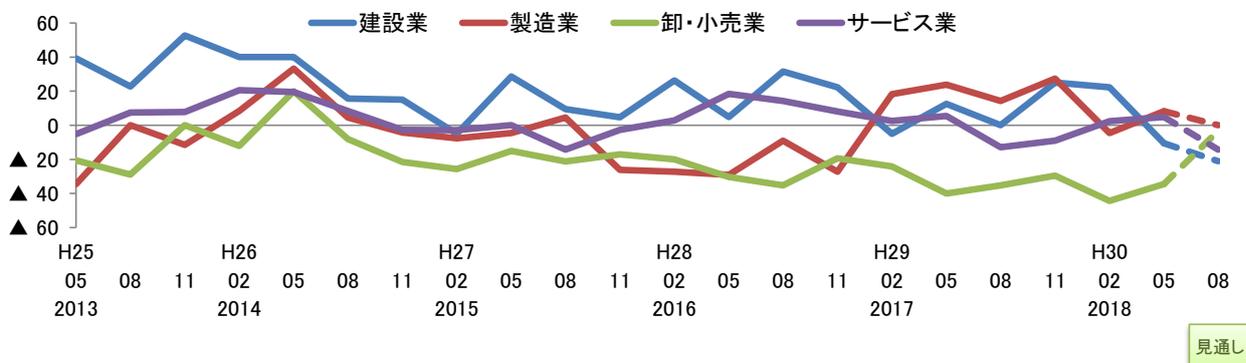
「自社の業況 D I 値（前年同期比）」は▲7.0（前回調査比 0.4 ポイント上昇）と、ほぼ横ばいとなっている。業種別にみると、建設業で悪化となっているものの、その他の 3 業種は改善となっている。

業況の先行き見通しは、「自社の業況 D I 値」が▲9.6（今回調査比 2.6 ポイント下落）と引き続き業況は停滞する見込みとなっている。

図表 12 村山南部「自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



図表 13 村山南部「業種別・自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況 D I 値

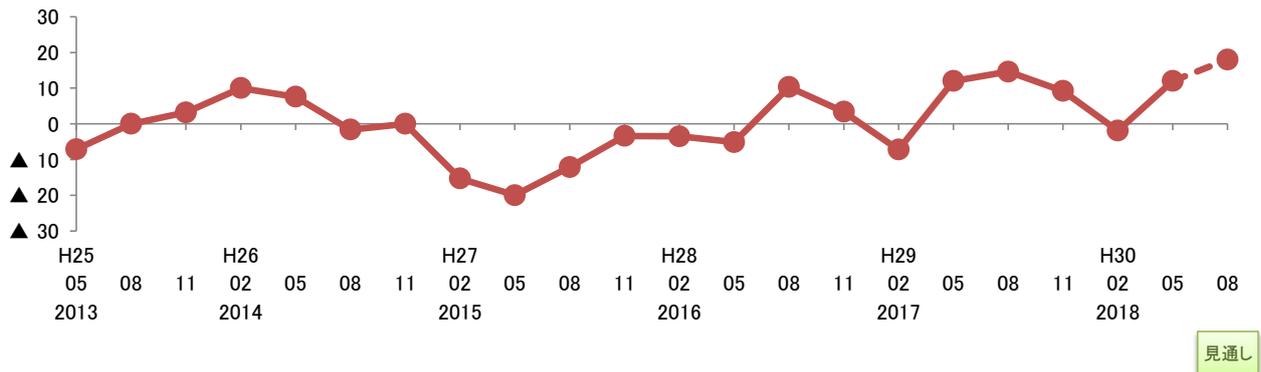
村山南部 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			業種別/自社業況（前年同期比）			
	全業種	前回調査比	前回調査予測	建設	製造	卸・小売	サービス
H 29.05 (n=104)	▲ 2.8	(▲ 0.1)	▲ 7.2	12.5	23.8	▲ 40.0	5.4
H 29.08 (n=107)	▲ 10.3	(▲ 7.6)	▲ 11.6	0.0	14.3	▲ 35.3	▲ 12.9
H 29.11 (n=113)	▲ 0.9	(9.4)	▲ 8.4	25.0	27.3	▲ 29.6	▲ 9.1
H 30.02 (n=108)	▲ 7.4	(▲ 6.5)	▲ 4.4	22.2	▲ 4.6	▲ 44.4	2.4
<b>H 30.05 (n=114)</b>	<b>▲ 7.0</b>	<b>(0.4)</b>	<b>▲ 10.2</b>	<b>▲ 10.6</b>	<b>8.3</b>	<b>▲ 34.5</b>	<b>4.8</b>
前回調査比	-	-	-	(▲ 32.8)	(12.9)	(9.9)	(2.4)
<b>先行き見通し</b>	<b>▲ 9.6</b>	-	-	<b>▲ 21.1</b>	<b>0.0</b>	<b>▲ 3.4</b>	<b>▲ 14.3</b>
今回調査比	(▲ 2.6)	-	-	(▲ 10.5)	(▲ 8.3)	(31.1)	(▲ 19.1)

## ② 村山北部

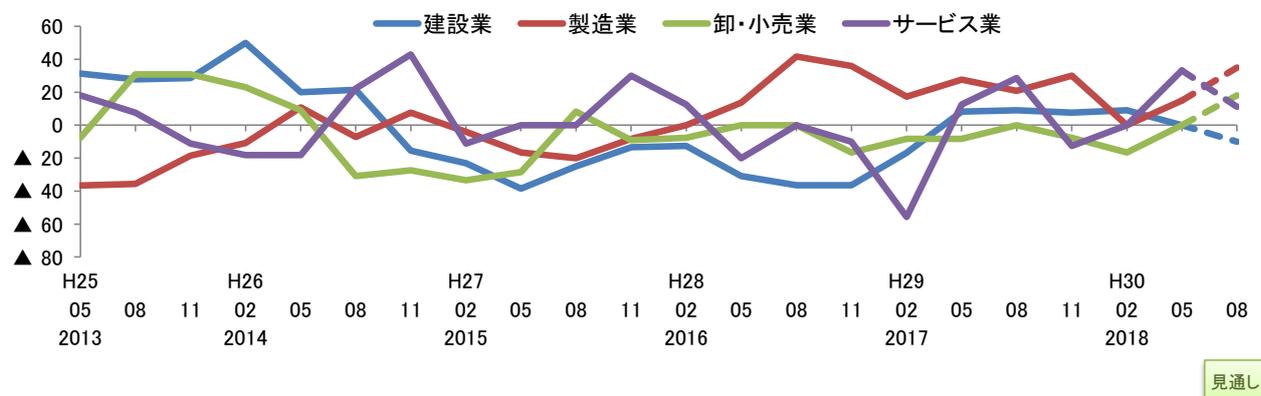
「自社の業況DI値（前年同期比）」は 12.0（前回調査比 13.9 ポイント上昇）とDI値が再びプラスに転じ、一進一退の状況となっている。業種別にみると、建設業を除く3業種で改善となった。

業況の先行き見通しは、「自社の業況DI値」が 18.0（今回調査比 6.0 ポイント上昇）と改善の見込みとなっている。

図表 14 村山北部「自社業況DI値（前年同期比）」の推移



図表 15 村山北部「業種別・自社業況DI値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況DI値

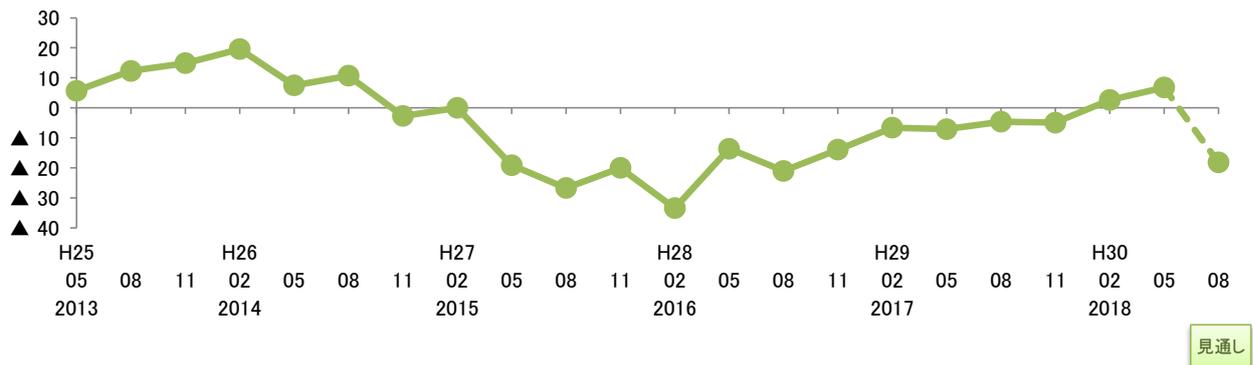
村山北部 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			業種別/自社業況（前年同期比）			
	全業種	前回調査比	前回調査予測	建設	製造	卸・小売	サービス
H 29.05 (n=50)	12.0	(19.2)	▲ 16.1	8.3	27.7	▲ 8.3	12.5
H 29.08 (n=55)	14.6	(2.6)	▲ 6.0	9.1	20.8	0.0	28.6
H 29.11 (n=54)	9.2	(▲ 5.4)	▲ 5.4	7.7	30.0	▲ 7.7	▲ 12.5
H 30.02 (n=52)	▲ 1.9	(▲ 11.1)	1.8	9.1	0.0	▲ 16.6	0.0
H 30.05 (n=50)	12.0	(13.9)	▲ 5.8	0.0	15.0	0.0	33.3
前回調査比	-	-	-	(▲ 9.1)	(15.0)	(16.6)	(33.3)
先行き見通し	18.0	-	-	▲ 10.0	35.0	18.2	11.1
今回調査比	(6.0)	-	-	(▲ 10.0)	(20.0)	(18.2)	(▲ 22.2)

### ③ 最上

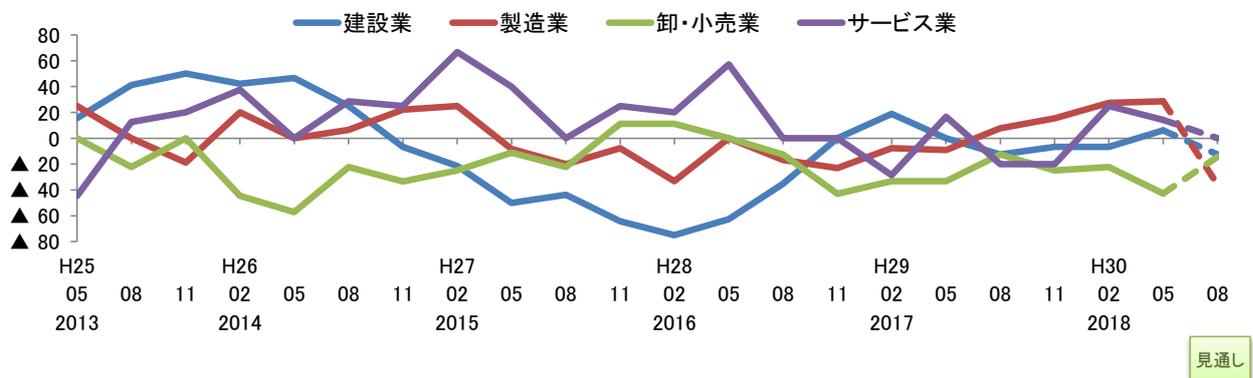
「自社の業況DI値（前年同期比）」は6.8（前回調査比4.2ポイント上昇）と、2期連続で改善した。業種別にみると、建設業で改善、製造業でも若干改善となっている。

業況の先行き見通しは、「自社の業況DI値」が▲18.2（今回調査比25.0ポイント下落）と悪化の見込みとなっている。

図表 16 最上「自社業況DI値（前年同期比）」の推移



図表 17 最上「業種別・自社業況DI値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況DI値

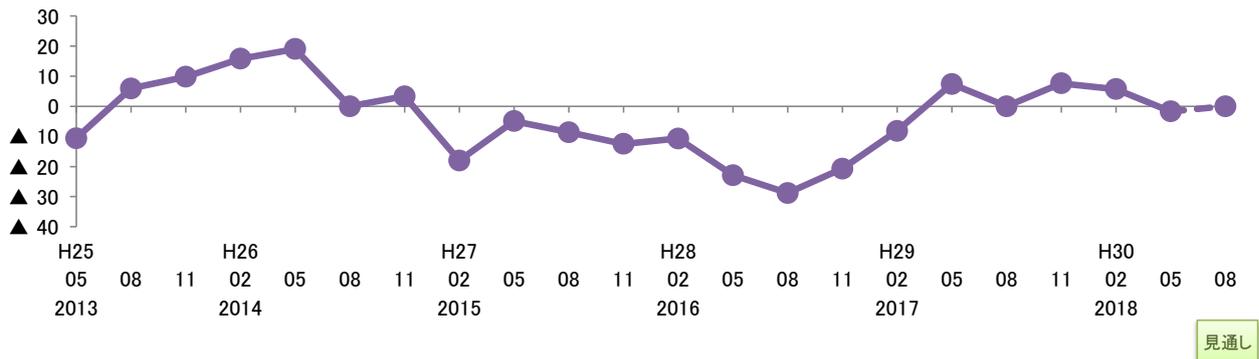
最上 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			業種別/自社業況（前年同期比）			
	全業種	前回調査比	前回調査予測	建設	製造	卸・小売	サービス
H 29.05 (n=42)	▲ 7.1	(▲ 0.5)	▲ 22.2	0.0	▲ 9.1	▲ 33.3	16.6
H 29.08 (n=44)	▲ 4.6	(2.5)	▲ 23.9	▲ 12.5	14.3	▲ 12.5	▲ 20.0
H 29.11 (n=41)	▲ 4.9	(▲ 0.3)	▲ 2.3	▲ 6.6	15.4	▲ 25.0	▲ 20.0
H 30.02 (n=39)	2.6	(7.5)	▲ 12.2	▲ 6.7	27.3	▲ 22.2	25.0
<b>H 30.05 (n=44)</b>	<b>6.8</b>	<b>(4.2)</b>	<b>▲ 12.8</b>	<b>6.2</b>	<b>28.6</b>	<b>▲ 42.8</b>	<b>14.2</b>
前回調査比	-	-	-	(12.9)	(1.3)	(▲ 20.6)	(▲ 10.8)
<b>先行き見通し</b>	<b>▲ 18.2</b>	-	-	<b>▲ 12.5</b>	<b>▲ 35.8</b>	<b>▲ 14.3</b>	<b>0.0</b>
今回調査比	(▲ 25.0)	-	-	(▲ 18.7)	(▲ 64.4)	(28.5)	(▲ 14.2)

### ④ 置 賜

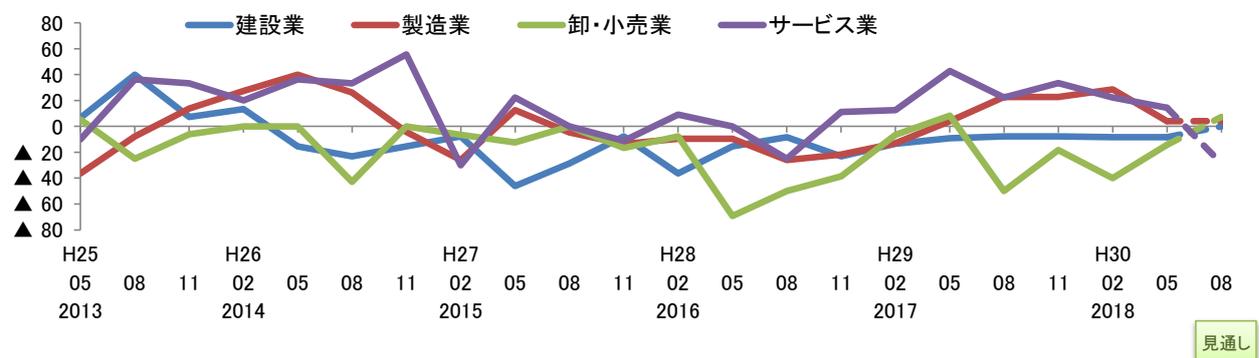
「自社の業況DI値（前年同期比）」は▲1.7（前回調査比 7.4 ポイント下落）と悪化となっている。業種別にみると、製造業とサービス業で悪化となった。

業況の先行き見通しは、「自社の業況DI値」が 0.0（今回調査比 1.7 ポイント上昇）と足踏み状態が見込まれている。

図表 18 置賜「自社業況DI値（前年同期比）」の推移



図表 19 置賜「業種別・自社業況DI値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況DI値

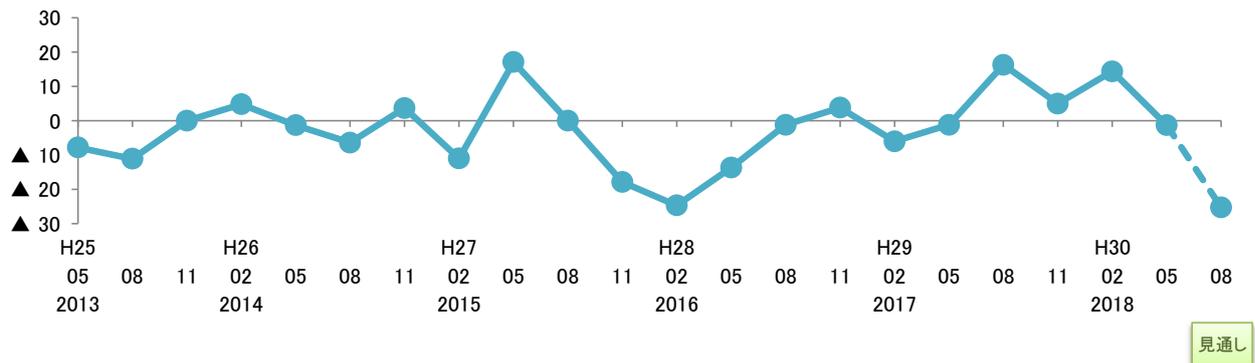
置 賜 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			業種別/自社業況（前年同期比）			
	全業種	前回調査比	前回調査予測	建設	製造	卸・小売	サービス
H 29.05 (n=54)	7.4	(15.6)	▲ 16.4	▲ 9.1	4.1	8.3	42.8
H 29.08 (n=58)	0.0	(▲ 7.4)	1.8	▲ 7.7	4.0	▲ 50.0	22.2
H 29.11 (n=52)	7.6	(7.6)	▲ 10.4	▲ 7.7	22.7	▲ 18.2	33.4
H 30.02 (n=52)	5.7	(▲ 1.9)	▲ 19.2	▲ 8.3	28.6	▲ 40.0	22.2
<b>H 30.05 (n=58)</b>	<b>▲ 1.7</b>	<b>(▲ 7.4)</b>	<b>▲ 19.3</b>	<b>▲ 8.3</b>	<b>4.0</b>	<b>▲ 14.3</b>	<b>14.3</b>
前回調査比	-	-	-	(0.0)	(▲ 24.6)	(25.7)	(▲ 7.9)
<b>先行き見通し</b>	<b>0.0</b>	-	-	<b>0.0</b>	<b>4.0</b>	<b>7.2</b>	<b>▲ 28.6</b>
今回調査比	(1.7)	-	-	(8.3)	(0.0)	(21.5)	(▲ 42.9)

### ⑤ 庄内田川

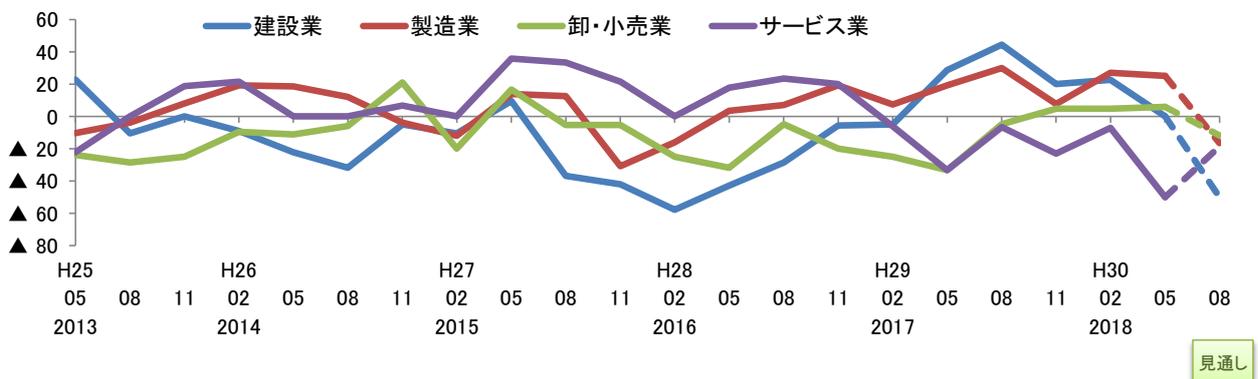
「自社の業況DI値（前年同期比）」は▲1.3（前回調査比 15.7 ポイント下落）と、一進一退の状況となっている。業種別にみると、建設業、製造業、サービス業で悪化となっている。

業況の先行き見通しは、「自社の業況DI値」が▲25.3（今回調査比 24.0 ポイント下落）と大幅に悪化の見込みとなっている。

図表 20 庄内田川「自社業況DI値（前年同期比）」の推移



図表 21 庄内田川「業種別・自社業況DI値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況DI値

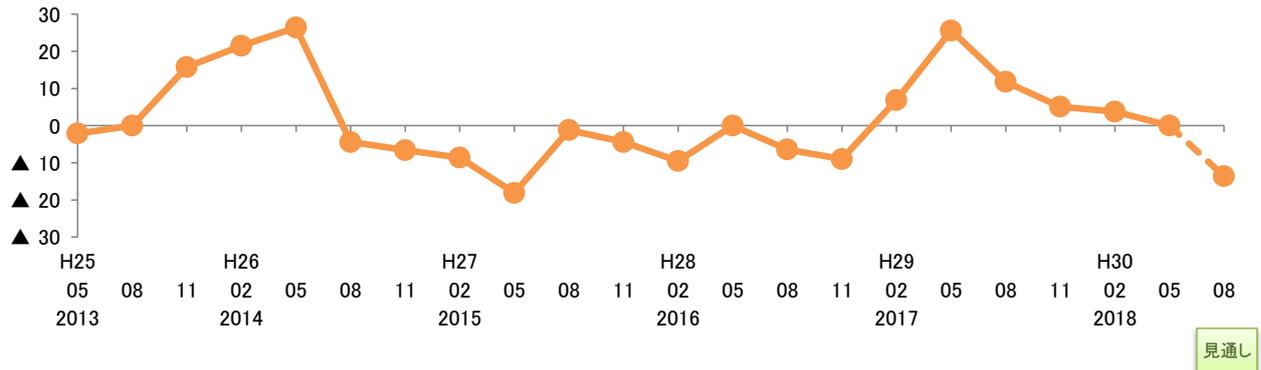
庄内田川 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			業種別/自社業況（前年同期比）			
	全業種	前回調査比	前回調査予測	建設	製造	卸・小売	サービス
H 29.05 (n=83)	▲ 1.2	(4.8)	▲ 8.4	28.6	19.2	▲ 33.3	▲ 33.3
H 29.08 (n=86)	16.3	(17.5)	▲ 14.4	44.5	30.0	▲ 4.8	▲ 6.6
H 29.11 (n=80)	5.0	(▲ 11.3)	▲ 4.6	20.0	7.7	4.8	▲ 23.1
H 30.02 (n=83)	14.4	(9.4)	▲ 10.0	22.7	27.0	4.8	▲ 7.1
<b>H 30.05 (n=79)</b>	<b>▲ 1.3</b>	<b>(▲ 15.7)</b>	<b>▲ 10.8</b>	<b>0.0</b>	<b>25.0</b>	<b>5.9</b>	<b>▲ 50.0</b>
前回調査比	-	-	-	(▲ 22.7)	(▲ 2.0)	(1.1)	(▲ 42.9)
<b>先行き見通し</b>	<b>▲ 25.3</b>	-	-	<b>▲ 50.0</b>	<b>▲ 16.6</b>	<b>▲ 11.8</b>	<b>▲ 18.7</b>
今回調査比	(▲ 24.0)	-	-	(▲ 50.0)	(▲ 41.6)	(▲ 17.7)	(31.3)

## ⑥ 庄内飽海

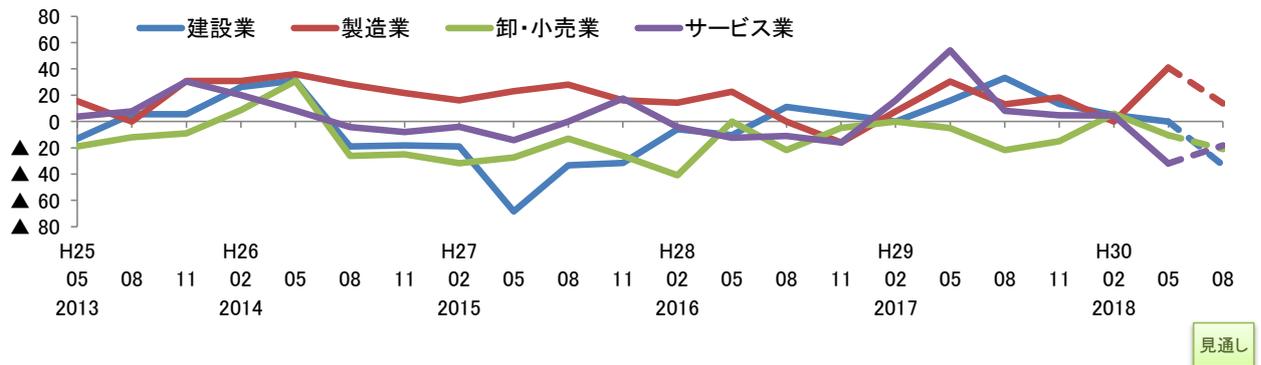
「自社の業況DI値（前年同期比）」は0.0（前回調査比3.8ポイント下落）と4期連続で悪化した。業種別にみると、製造業を除く3業種で悪化となった。

業況の先行き見通しは、「自社の業況DI値」が▲13.6（今回調査比13.6ポイント下落）と悪化の見込みとなっている。

図表 22 庄内飽海「自社の業況DI値（前年同期比）」の推移



図表 23 庄内飽海「業種別・自社の業況DI値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況DI値

庄内飽海 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			業種別/自社業況（前年同期比）			
	全業種	前回調査比	前回調査予測	建設	製造	卸・小売	サービス
H 29.05 (n=86)	25.6	(18.7)	▲ 3.5	15.8	30.5	▲ 5.0	54.1
H 29.09 (n=85)	11.8	(▲ 13.8)	▲ 2.3	33.3	13.0	▲ 21.7	8.0
H 29.11 (n=78)	5.1	(▲ 6.7)	▲ 7.1	13.3	18.2	▲ 15.0	4.8
H 30.02 (n=80)	3.8	(▲ 1.3)	▲ 8.9	5.0	0.0	5.9	4.5
<b>H 30.05 (n=81)</b>	<b>0.0</b>	<b>(▲ 3.8)</b>	<b>▲ 17.5</b>	<b>0.0</b>	<b>40.9</b>	<b>▲ 10.5</b>	<b>▲ 31.9</b>
前回調査比	-	-	-	(▲ 5.0)	(40.9)	(▲ 16.4)	(▲ 36.4)
<b>先行き見通し</b>	<b>▲ 13.6</b>	-	-	<b>▲ 33.3</b>	<b>13.6</b>	<b>▲ 21.0</b>	<b>▲ 18.2</b>
今回調査比	(▲ 13.6)	-	-	(▲ 33.3)	(▲ 27.3)	(▲ 10.5)	(13.7)

II. 景気天気予報図

**山 形 県**

  
 今期の業況

➔

  
 来期の見通し

【天気図の凡例】

特に好調	好調	まあまあ	不振	きわめて不振
$D \geq 30$	$30 > D \geq 10$	$10 > D \geq \Delta 10$	$\Delta 10 > D \geq \Delta 30$	$\Delta 30 > D$
				



今期の概況

来期の見通し

	山形県	村山南部	村山北部	最上	置賜	庄内田川	庄内飽海
全業種							
建設業							
製造業							
卸・小売業							
サービス業							



	山形県	村山南部	村山北部	最上	置賜	庄内田川	庄内飽海
全業種							
建設業							
製造業							
卸・小売業							
サービス業							

### III. 特別調査

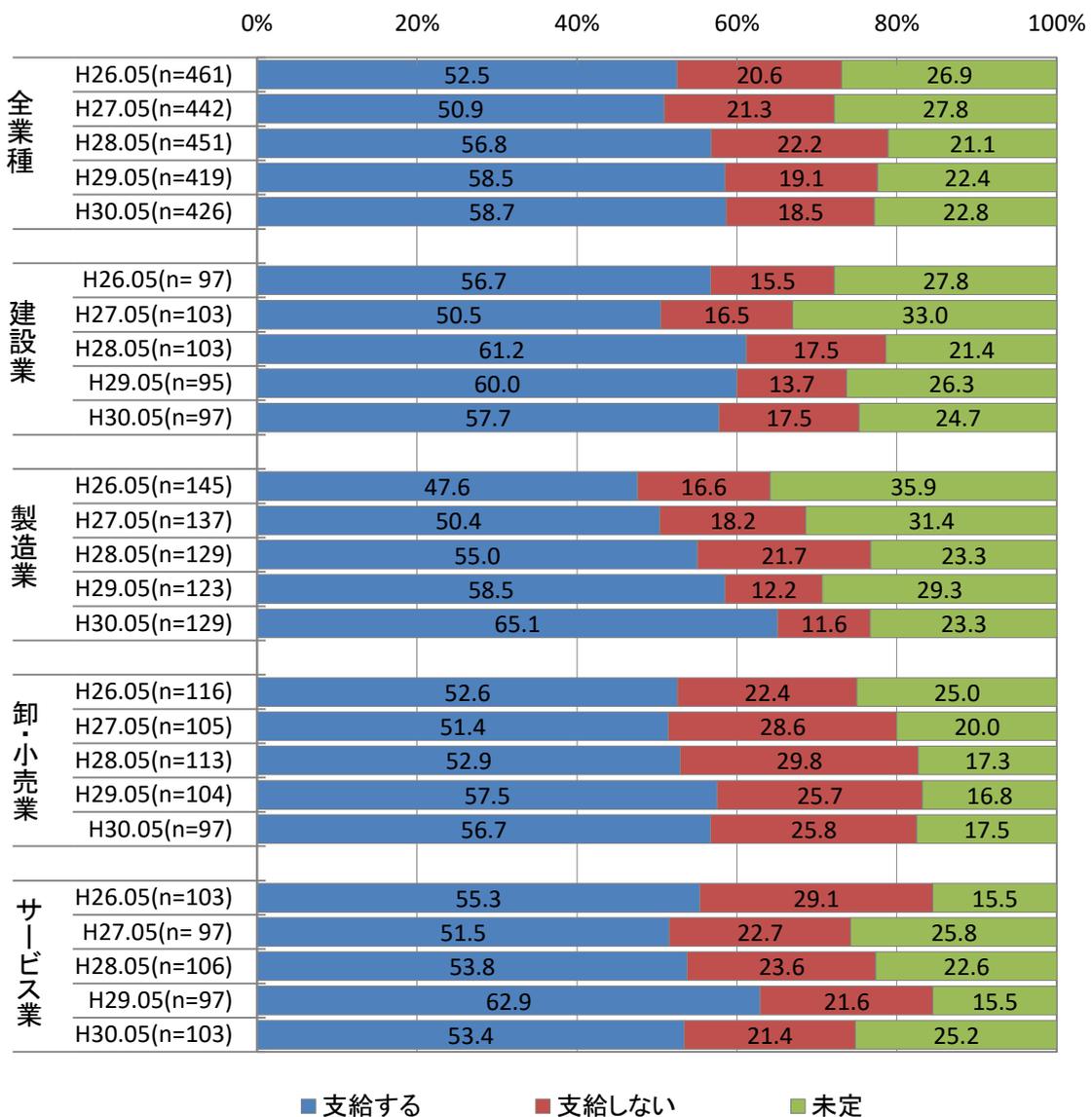
#### 1. 夏季ボーナスについて

##### (1) 支給予定動向

夏季ボーナスの支給予定について尋ねたところ、全業種でみると、「支給する」と回答した企業の割合は 58.7%（前年比 0.2 ポイント上昇）と、前年とほぼ同水準となった。

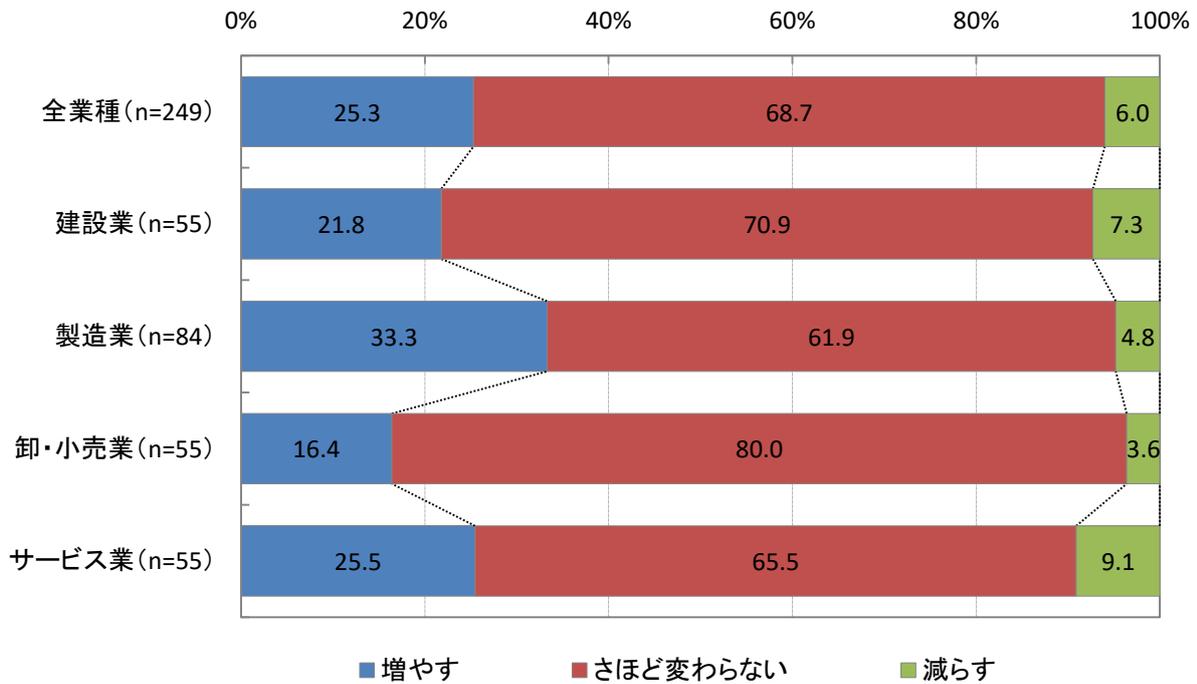
業種別にみると、「支給する」と回答した企業の割合は、建設業が 57.7%（前年比 2.3 ポイント低下）、製造業が 65.1%（前年比 6.6 ポイント上昇）、卸・小売業が 56.7%（前年比 0.8 ポイント低下）、サービス業が 53.4%（前年比 9.5 ポイント低下）となった。製造業の 5 カ年の推移をみると、連続して上昇している。

図表 24 業種別「冬季ボーナス支給動向」の推移



また、今季「支給する」と回答した企業に対し、前年夏季と比べて支給額を増やすかどうか尋ねたところ、全業種でみると「さほど変わらない」と回答した企業が 68.7%と最も多く、「増やす」と回答した企業は 25.3%であった。業種別にみると、製造業で「増やす」と回答した企業の割合が他業種に比べて高い。

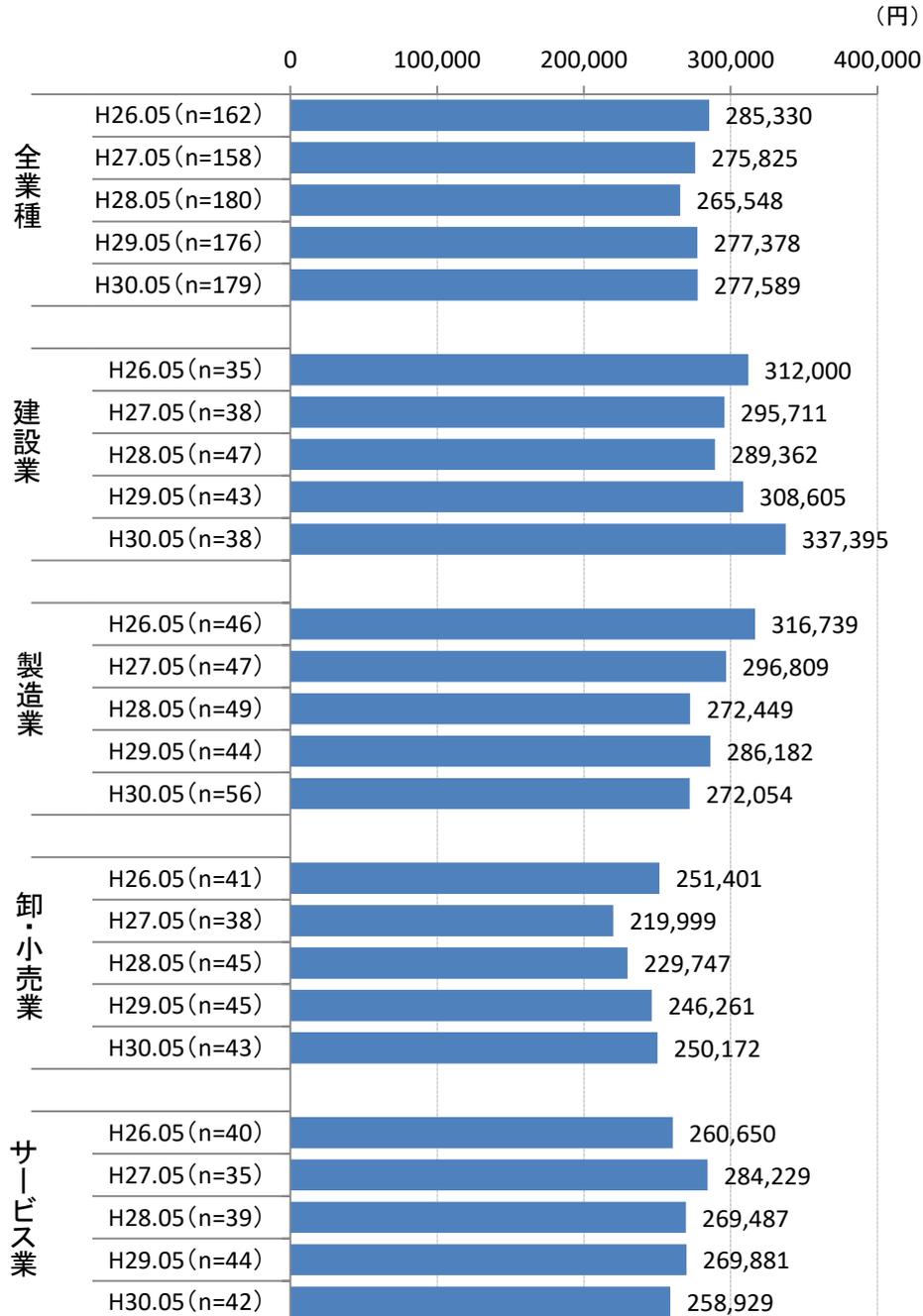
図表 25 業種別 夏季ボーナスを支給する企業の方針



## (2) 支給予定額

夏季ボーナスの支給予定額については、全業種平均で 277,589 円となり、前年とほぼ同水準となる見込みである。業種別に前年比をみると、建設業で増加（前年比 2.9 万円増加）、製造業で減少（前年比 1.4 万円減少）、卸・小売業でほぼ横ばい（前年比 0.4 万円増加）、サービス業で減少（1.1 万円減少）と、業種間では多少ばらつきがみられる。

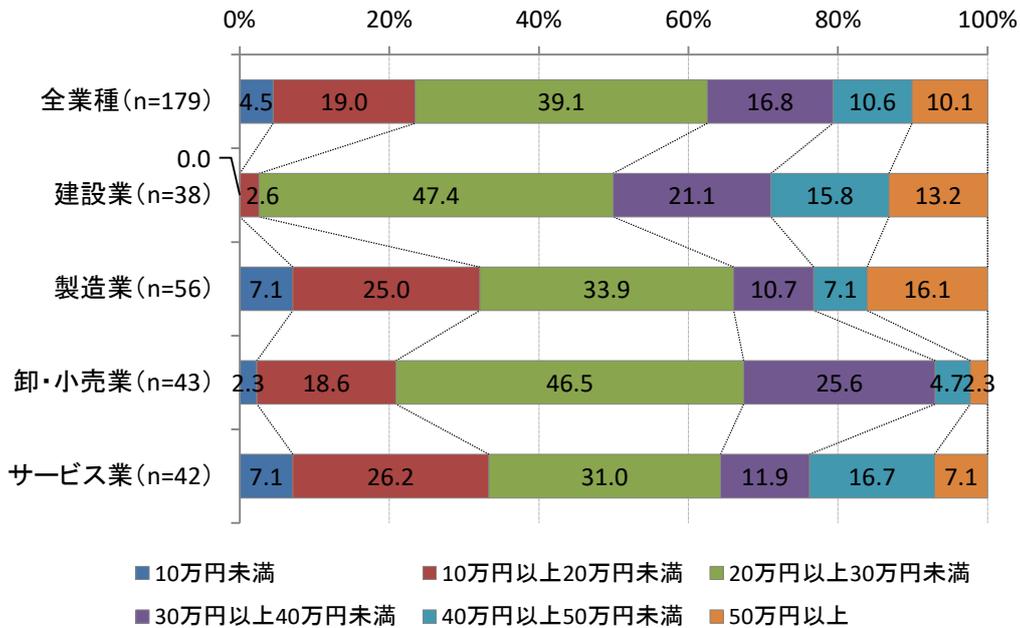
図表 26 業種別 夏季ボーナスの平均支給予定額の推移



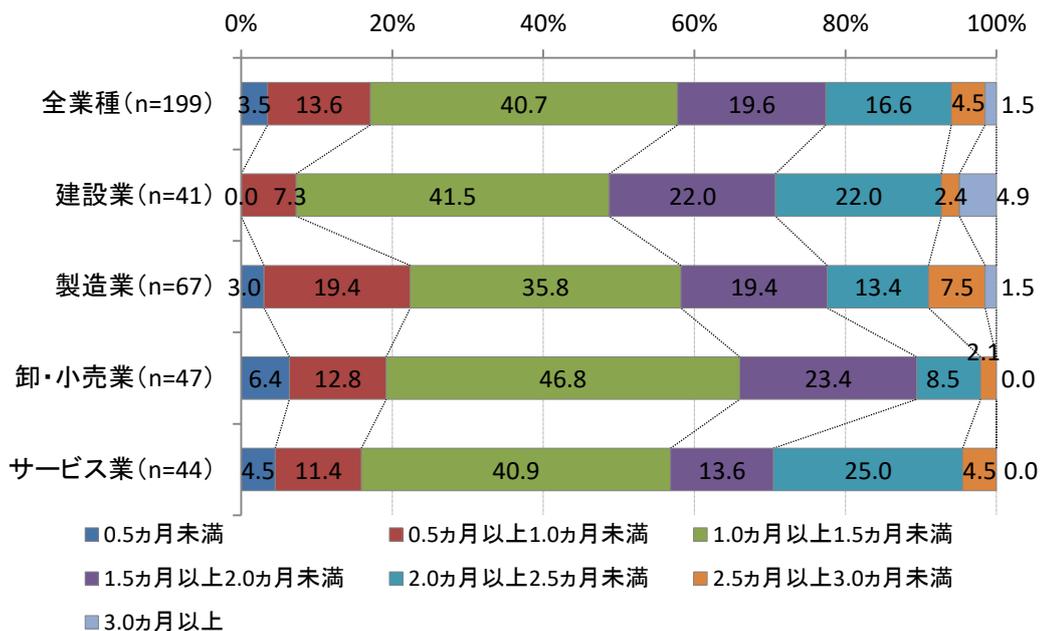
平均支給予定額は、全業種で「20 万円以上 30 万円未満」と回答した企業の割合が最も高く、39.1%となっている。

平均支給予定月数は、全業種で「1.0 カ月以上 1.5 カ月未満」と回答した企業の割合が最も高く、40.7%となっている。

図表 27 業種別 夏季ボーナス平均支給予定額



図表 28 業種別 冬季ボーナス平均支給予定月数

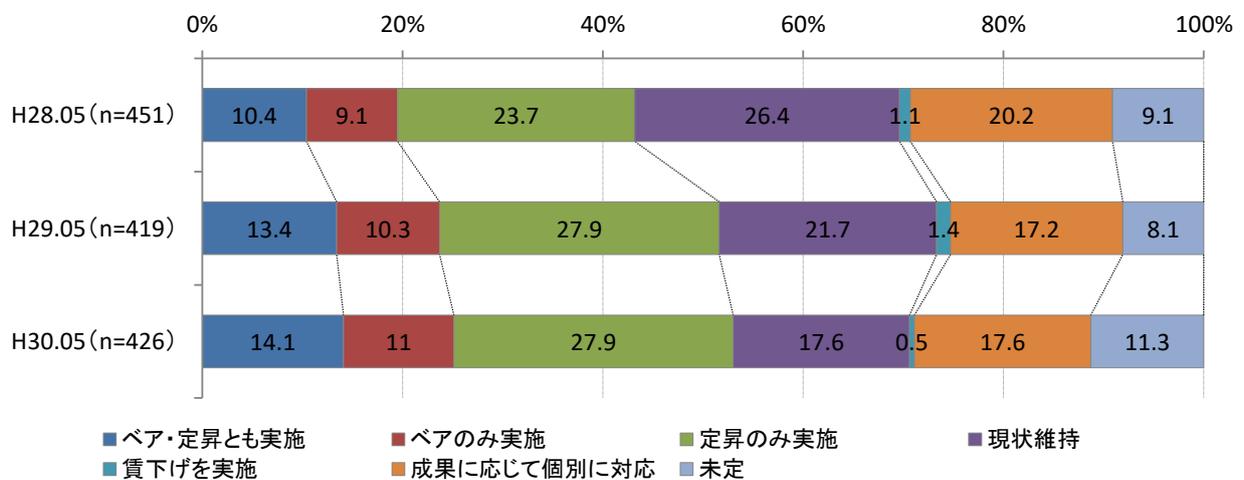


## 2. 春季以降の賃金改定動向について

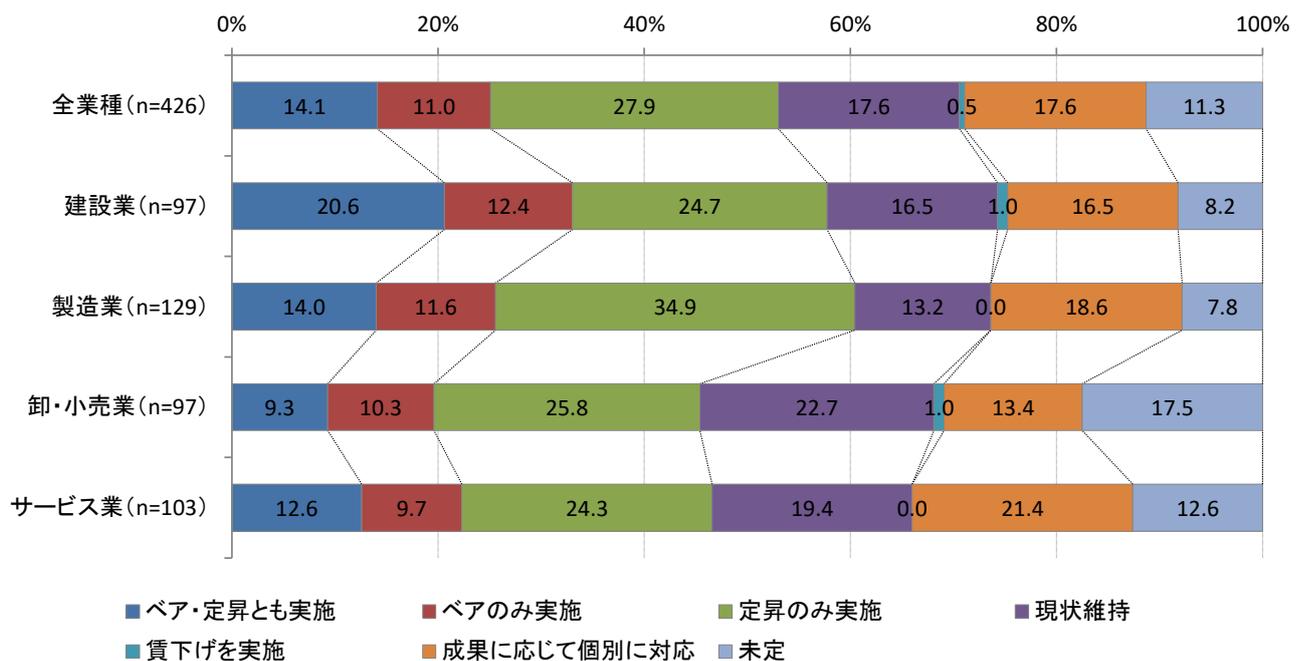
平成 30 年 4 月以降の賃金改定動向（ベースアップや定期昇給を実施する（した）か）を尋ねたところ、賃上げを実施する（した）企業の割合（「ベア・定昇とも実施」+「ベアのみ実施」+「定昇のみ実施」）は、全業種で 53.0%と、前年（51.6%）に引き続き 5 割以上を占めた。一方、賃下げの実施などその他の割合（「賃下げを実施」+「成果に応じて個別に対応」+「未定」）は 29.4%と前年（26.7%）に比べ、2.7 ポイント低下した。

業種別にみると、賃上げを実施する（した）企業の割合は製造業が 60.5%と最も高く、以下は建設業（57.7%）、サービス業（46.6%）、卸・小売業（45.4%）の順となっている。

図表 29 全業種 賃金改定動向の推移



図表 30 業種別 賃金改定動向



<参考資料Ⅰ：地域別・業種別回答率>

(サンプル数：社)

	建設	製造	卸・小売	サービス	合計
村山南部	23	35	48	55	161
村山北部	20	34	17	18	89
最上	21	18	11	18	68
置賜	23	32	25	13	93
庄内田川	30	38	29	29	126
庄内飽海	35	35	32	37	139
合計	152	192	162	170	676

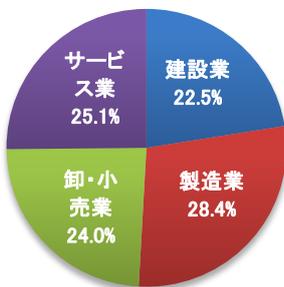
(回答数：社)

	建設	製造	卸・小売	サービス	合計
村山南部	19	24	29	42	114
村山北部	10	20	11	9	50
最上	16	14	7	7	44
置賜	12	25	14	7	58
庄内田川	22	24	17	16	79
庄内飽海	18	22	19	22	81
合計	97	129	97	103	426

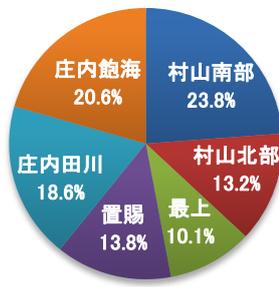
(回答率：%)

	建設	製造	卸・小売	サービス	合計
村山南部	82.6	68.6	60.4	76.4	70.8
村山北部	50.0	58.8	64.7	50.0	56.2
最上	76.2	77.8	63.6	38.9	64.7
置賜	52.2	78.1	56.0	53.8	62.4
庄内田川	73.3	63.2	58.6	55.2	62.7
庄内飽海	51.4	62.9	59.4	59.5	58.3
合計	63.8	67.2	59.9	60.6	63.0

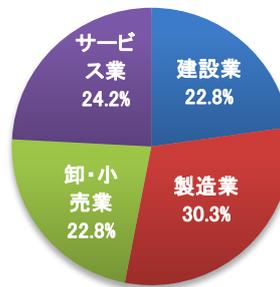
サンプル割合（業種別）



サンプル割合（地域別）



回答社割合（業種別）



回答社割合（地域別）



<参考資料Ⅱ：調査の概要>

● 調査の目的

県内に本社を置いて企業活動を営む法人企業を対象に、各社の業況の現状と今後の見通しに関する判断を調査し、県内の景気動向について把握するために実施した

● 調査の方法

インターネットを利用したアンケート調査（一部 F A X を利用）

● 調査期間

平成 30 年 5 月 7 日(月)～16 日(水)

● 地域区分

地域名	対象となる市町村名
村山南部	山形市、上山市、山辺町、中山町
村山北部	寒河江市、村山市、天童市、東根市、尾花沢市、河北町、西川町、朝日町、大江町、大石田町
最 上	新庄市、金山町、最上町、舟形町、真室川町、大蔵村、鮭川村、戸沢村
置 賜	米沢市、長井市、南陽市、高畠町、川西町、小国町、白鷹町、飯豊町
庄内田川	鶴岡市、庄内町、三川町
庄内飽海	酒田市、遊佐町

● 調査の内容

アンケート調査は、各企業の業況判断について3肢択一方式を採用している。毎回必ず調査する「定例調査」と、調査時期にふさわしい経済トピックス等について調査する「特別調査」とを設けている

項 目	選択肢 (択一方式)
自社の業況 (共通項目)	1. 良い 2. さほど変わらない 3. 悪い
業界の業況 (共通項目)	1. 良い 2. さほど変わらない 3. 悪い
売上高 (建設業を除く)	1. 増えた 2. さほど変わらない 3. 減った
完成工事高 (建設業)	1. 増えた 2. さほど変わらない 3. 減った
営業利益 (共通項目)	1. 増えた 2. さほど変わらない 3. 減った
人員や人手 (共通項目)	1. 足りない 2. ちょうどよい 3. 余っている
資金繰り (共通項目)	1. 楽になった 2. さほど変わらない 3. 厳しい
原材料等の仕入価格 (製造業のみ)	1. 下がった 2. さほど変わらない 3. 上がった
製(商)品の仕入価 (卸・小売業のみ)	1. 下がった 2. さほど変わらない 3. 上がった
在庫状況 (製造業)	1. 増えた 2. さほど変わらない 3. 減った
手持工事高 (建設業)	1. 増えた 2. さほど変わらない 3. 減った

(注) 各項目とも「前年同期比」、「前期比」、「来期の見通し」について、それぞれ3肢択一方式を採用している

● 集計方法

各項目とも、現状判断、先行き見通しについてそれぞれDI値を算出する。DI値とは、Diffusion Index (ディフュージョン・インデックス) の略で、算出方法は次の通り

例) 自社の業況DI値

$$= (\text{「1. 良い」と回答した企業の割合}) - (\text{「3. 悪い」と回答した企業の割合})$$

たとえば「自社の業況DI値」がプラスであれば、相対的に自社の業況が良いと判断した企業が多いことになる。また、業況の変化の方向(良くなっているか、悪くなっているか)についても分かる

ちなみに、他のDI値についても同様に、選択肢「1. 」(「調査の内容」の「選択肢」欄をご参照のこと)を選んだ企業の割合から選択肢「3. 」を選んだ企業の割合を差し引いて算出する

<お知らせ>

F S N会員専用ホームページ (<http://www.bb-town.jp/cgi-bin/fsn.cgi>) にアクセスすると、統計データの最新版をダウンロードすることができます。こちらも是非ご利用ください。なお、過去の調査レポートや統計データは当社ホームページ (<http://www.f-ric.co.jp/>) 「調査レポート」コーナーからダウンロードすることができます。

<お問い合わせ先>

株式会社フィデア総合研究所

地域政策コンサルティンググループ 熊本 均 / 松田 美由紀

〒990-0043 山形県山形市本町1-4-21 荘銀山形ビル8F

TEL : 023-626-9017 FAX : 023-626-9038

E-mail : kenkyuu@f-ric.co.jp URL : <http://www.f-ric.co.jp/>